

がん化学療法科 ニュースレター

ほほえみ 第71号



9月半ばから、聴力が低下するという事態にみまわれ、急遽、お休みをいただくこととなりました。当科に通院中の皆様には、大変、ご迷惑をお掛けいたしました。誠に、申し訳ありませんでした。また、診療をカバーしてくださった、秋田大学の先生方、石巻赤十字病院の大堀先生、当科のスタッフには、深く感謝申し上げます。聴力が回復する見込みのある期間が限定されるということでの対処でしたが、幸い、耳鼻咽喉科での治療により、かなり聴力が回復し、10月3日より、職場復帰となりました。お世話になった皆様に、御礼申し上げます。

陰陽相俟の二元論

東洋哲学的なこの言葉を、アメリカ大統領選挙で思い出すとは思いませんでした。今回のニュースレターは、10月に入ってから、大きく遅れて書いているのですが、その間に、アメリカ大統領選挙のテレビ討論会の第二回目がありました。トランプ候補が女性蔑視発言を指摘され、謝罪。クリントン候補がそれを糾弾するという会で、荒れた討論会であったようですが、冒頭で、両者が握手すらしなかったということも話題となった討論会でした。

東洋では、指導的な立場にある人間は、才よりは徳がなければならぬとされてきて、弁論が上手というより、人物としての徳、大きさが求められます。相手を容れるということです。深沈厚重(呻吟語)に代表される人格で、西郷隆盛的な人物ですね。才=陽、徳=陰として、陰陽の二元論で考えるものが、陰陽相俟の二元論です。現実には、陰陽、或いは、才徳の両者が必要なのですが、最後は徳が才に勝るべきというのが、司馬光の考えでした。こう考えてくると、次のアメリカ大統領候補の両者とも、残念ながら、議論したり、意見を扇動したりする能力はあっても、人物の大きさが足りないようです。

しかし、本来はアメリカ大統領に求められるものこそ、善、正義としての大きな人格なのです。アメリカは、本来、清教徒の作った国ですが、清教徒(ピューリタン)というのは、本来、褒め言葉ではありません。欲望を充足することを、潔癖なまでに否定する人(極端にピュア → ピューリタン)なのです。例えば、禁酒法というのは、ピューリタンの国でしか起こらないものなのですね。アメリカ大統領は、制度上、強力な権限があり、アメリカ自体、超大国でもありますが、そうであるからこそ、アメリカの方向を決める大統領には、潔癖なまでに、善、正義に基づく判断の確かさが求められているのです。これは、東洋的な徳と、ほとんど重なるものです。

今回の流れでは、共和党のトランプ候補の資質に関して、大きな疑問が指摘された所です。もはや、それは明らかなので、クリントン候補は握手もするし、議論もするのですが、もはや、人格としての勝負はついたとすれば、トランプ氏個人の攻撃からはやや離れるべきでした。つまり、二大政党の候補者に対し握手するのであって、個人としては認めないということを明言。アメリカ大統領のあるべき姿を、身をもって、国民に強く示せば、議論は無用でした。

実際には、アメリカ国民の好みに合いそうなのは、軽くジョークを言って、相手を笑い飛ばすということです。クリントン氏は女性ですし、女性蔑視発言の後だけに、歴史に残るジョークを言えた絶好の機会でした。その上で、共和党支持者に対しても、敵愾心はない、意見は聞き入れるということさえ伝えれば、誰もが次期大統領として認めたと思います。きっと、弁才を誇る人物なので、勇み足だったのですが、逆に、アメリカ国民は、両者に、大統領としての適格性を見いだせず、失望したと思います。



次期大統領は？

周波数

今回、聴力が低下したことで、音域によって聞き取りやすさに違いがあり、日常生活で接する音の周波数に敏感になりました。一時期は、広い音域で聞き取りにくかったのですが、聴力が回復した今は高音域が低下しています。

高音域の代表は、虫の音です。高音とは、周波数で言うと、周波数が高いものになり、スズムシが4000Hz前後、よく耳にするコオロギは10.000Hz以上です。高音域の代表はコオロギですね。個人的には、寝返りを打つと、コオロギの音が聞こえたり、聞こえなかったりということが起きました。

救急車のピーポーは、ピーが960Hz、ポーが770Hzで、日常的にはこの音域が聞こえるかが、会話音域とも重なるため大切です。実際には、聞こえるかどうかのほかに、聞こえない音域で耳鳴りがしたりするので、単純ではありません。因みに、ピアノの鍵盤では、27.5Hzから4186Hzの範囲の音が出ます。まだ、内服継続中なので、少しずつでも回復しないかなと願っています。

リリリリ~



ピーポー



秋バラの開花

今年植えつけたバラが、少しずつ成長し、秋バラのシーズンを迎えています。つるバラのローゼンドルフ・シュパーリスホープが、開花しました。このバラは、花弁がフリル状になり、咲き始めはピンクですが、徐々に白くなる性質があります。一本のバラですが、ピンクと白の花が混ざったように見えます。

今年は、バラの季節も終盤ですが、来年は、もっと沢山、咲いてくれるようにお世話しています。ランブラーという長く枝が伸びるタイプのものもあり、冬には誘因作業を行うことになってますが、ちょっとテクニカルに難しそうですね。



MEMO

10月のがん化学療法科の予定

10月5日	診療応援(大堀先生)
10月7日	診療応援(島津先生)
10月10日	体育の日
10月14日	診療応援(柴田教授)
10月19日	診療応援(大堀先生)
10月21日	診療応援(福田先生)
	新渡戸稲造記念メディカル・カフェ
10月30日	診療応援(井上先生)



お弁当をもって、外に出かけたいですね。